

東北厚生局長 殿

山形大学医学部附属病院長
久保 田

山形大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 22 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	153人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	333人	13人	339.9人	看護補助者	29人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	18人	0人	18.0人	理学療法士	6人	臨床検査技師	32人
薬剤師	25人	0人	25.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	3人	その他	0人
助産師	11人	0人	11.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	504人	7人	509.4人	臨床工学技士	7人	医療社会事業従事者	2人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	1人	その他の技術員	5人
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	1人	事務職員	97人
管理栄養士	5人	1人	5.8人	診療放射線技師	27人	その他の職員	65人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	503.3人	8.4人	511.7人
1日当たり平均外来患者数	1092.7人	48.8人	1141.5人
1日当たり平均調剤数		654.8剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし /		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	58人	・膿疱性乾癬	5人
・多発性硬化症	39人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・重症筋無力症	41人	・原発性胆汁性肝硬変	40人
・全身性エリテマトーデス	122人	・重症急性膵炎	5人
・スモン	4人	・特発性大腿骨頭壊死症	27人
・再生不良性貧血	23人	・混合性結合組織病	31人
・サルコイドーシス	42人	・原発性免疫不全症候群	4人
・筋萎縮性側索硬化症	46人	・特発性間質性肺炎	11人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	84人	・網膜色素変性症	31人
・特発性血小板減少性紫斑病	20人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	28人	・肺動脈性肺高血圧症	8人
・潰瘍性大腸炎	158人	・神経線維腫症	17人
・大動脈炎症候群	10人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・ピュルガー病	14人	・慢性血栓性肺高血圧症	4人
・天疱瘡	15人	・ライソゾーム病	2人
・脊髄小脳変性症	37人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・クローン病	65人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	3人
・悪性関節リウマチ	9人	・肥大型心筋症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	106人	・拘束型心筋症	1人
・アミロイドーシス	3人	・ミトコンドリア病	6人
・後縦靭帯骨化症	17人	・黄色靭帯骨化症	2人
・ハンチントン病	7人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	117人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	32人		
・ウェゲナー肉芽腫症	7人		
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	65人		
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	34人		
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人		

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
転写因子MafB遺伝子改変マウス作成による喫煙肺気腫の病態研究	柴田 陽光	第一内科	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費
HMGB1の心筋梗塞縮小効果の検討:新しい血管新生治療の開発	久保田 功	第一内科	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費
動脈硬化性アテロームの進展および破綻におけるMafBの役割の解明	渡邊 哲	第一内科	900,000	補委 文部科学省科学研究費
房細動・心筋焼灼術の心臓交感神経機能の評価とテーラーメイド治療への応用	有本 貴範	第一内科	1,500,000	補委 文部科学省科学研究費
腎血管障害における抗酸化酵素Paraoxonase-1の役割と作用機序の解明	市川 一誠	第一内科	1,800,000	補委 文部科学省科学研究費
尿中プロテオーム解析による慢性腎臓病の機序と進行リスクの疫学的検討	池田 亜美	第一内科	1,200,000	補委 文部科学省科学研究費
ドキシソルピシン心筋症発症におけるユビキチン転移酵素Itohの機能の検討	高橋 大	第一内科	1,200,000	補委 文部科学省科学研究費
C型肝炎ウイルス株間における感染性キモウイルスを用いた感染中和メカニズムの解析	渡辺 久剛	第二内科	900,000	補委 文部科学省科学研究費
C型肝炎ウイルスNS3蛋白質と宿主病態制御分子の相互作用に関する研究	齋藤 貴史	第二内科	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費
生活習慣を考慮した、糖尿病、高血圧、等の生活習慣病の危険遺伝因子の解析	大門 眞	第三内科	500,000	補委 文部科学省科学研究費
耐糖能障害は悪性新生物罹患の危険因子となりうるか、舟形町疫学研究	大泉 俊英	第三内科	300,000	補委 文部科学省科学研究費
先天性好中球減少症におけるG-CSF受容体遺伝子異常の臨床的・生物学的意義	三井 哲夫	小児科	1,200,000	補委 文部科学省科学研究費
遺伝性ニューロパチーの病態解明	早坂 清	小児科	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費

年齢依存性てんかん性脳症の分子病態解明と分子シャペロン療法開発	加藤 光広	小児科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費
先天性中枢性低換気症候群の病態について:PHOX2B変異とハプロタイプ	佐々木綾子	小児科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費
幼少時期に受けた両親からの養育的要因が、人格特徴・対人関係敏感性に与える影響	大谷 浩一	精神科	500,000	補委	文部科学省科学研究費
うつ病の治療抵抗性に関与する心理的・生物学的要因の検討	鈴木 昭仁	精神科	400,000	補委	文部科学省科学研究費
壊死骨の再生促進に関する研究:自家成長因子を用いた骨再生促進とその臨床応用の開発	橋本 淳一	整形外科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費
遺伝性色素異常症病因遺伝子の機能の解明	鈴木 民夫	皮膚科	1,900,000	補委	文部科学省科学研究費
マイクロRNAによる泌尿器科癌の癌(抑制)遺伝子制御の研究	富田 善彦	泌尿器科	1,700,000	補委	文部科学省科学研究費
硝子体細胞-血管細胞連関による網膜血管環境安定化機構と糖尿病網膜症治療法開発	山下 英俊	眼科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費
眼内増殖性網膜疾患病態における硝子体細胞の機能解析と新しい治療戦略	西塚 弘一	眼科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費
IgG4硬化性疾患の病態の解明と関与分子を標的とした治療法の開発	太田 伸男	耳鼻咽喉科	1,900,000	補委	文部科学省科学研究費
聴性定常反応を応用した新しい他覚的聴力検査法の開発とその有用性に関する研究	伊藤 吏	耳鼻咽喉科	400,000	補委	文部科学省科学研究費

新たな視点での卵巣がん薬剤耐性化の解明:メタボロミクスの応用とオートファジー解析	倉智 博久	産科婦人科	4,300,000	補委	文部科学省科学研究費
卵巣癌の間葉系幹細胞の同定と機能解析—その分子標的治療に向けての基礎的研究	倉智 博久	産科婦人科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費
エストロゲン受容体 α と β を介した誘導型NO合成酵素発現調節に関わる共役因子の解析	堤 誠司	産科婦人科	700,000	補委	文部科学省科学研究費
加齢による卵の質の低下の分子機構—メタボロミクスとオートファジー解析—	高橋 俊文	産科婦人科	900,000	補委	文部科学省科学研究費
脳損傷時における脂質代謝酵素の発現解析	川前 金幸	麻酔科	600,000	補委	文部科学省科学研究費
耳介軟骨細胞を利用した再生軟骨による顎関節再建に向けた戦略的研究	飯野 光喜	歯科口腔外科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費
口腔粘膜の遺伝毒性試験における歯科的要因の検討	石川 恵生	歯科口腔外科	100,000	補委	文部科学省科学研究費
訴訟症例分析とデータマイニングによる歯科医療事故防止のためのガイドラインの作成	小林 武仁	歯科口腔外科	300,000	補委	文部科学省科学研究費
低酸素ストレス負荷における脳内グリア細胞の応答と神経細胞に与える影響	伊関 憲	救急科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費
がん分子標的薬のポジトロン断層法による適応・効果判定法に関する基礎的検討	吉岡 孝志	腫瘍内科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費
がん治療に伴う高次脳機能障害に関する統合的研究	鈴木 匡子	高次機能障害科	4,400,000	補委	文部科学省科学研究費
頭蓋内脳波、皮質電気刺激およびfMRIの統合的手法による発語過程の解明	丹治 和世	高次機能障害科	910,000	補委	文部科学省科学研究費
人工関節インプラント感染症における自然免疫機構Toll様受容体の機能解析	高木 理彰	リハビリテーション部	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費
放射線照射マウスにおける発生フリーラジカルの定量分析と経時変化の解析	野宮 琢磨	がん臨床センター	600,000	補委	文部科学省科学研究費

頭頸部扁平上皮癌根治治療後のTS-1補助化学療法の検討	小池 修治	耳鼻咽喉科	0	補 委	財団法人先端医療振興財団
膵がん切除後の補助化学療法における塩酸ゲムシタビン療法とS-1療法の第Ⅲ相比較試験(JSPAC01)	木村 理	第一外科	105,000	補 委	財団法人しずおか産業創造機構
StageⅢ結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのUFT/Leucovorin療法とTS-1療法の第Ⅲ相比較臨床試験および遺伝子発現に基づく効果予測因子の探索的研究	木村 理	第一外科	0	補 委	財団法人先端医療振興財団
「StageⅡ大腸癌に対する術後補助化学療法に関する研究」第Ⅲ相臨床試験	木村 理	第一外科	525,000	補 委	財団法人先端医療振興財団
StageⅡ大腸癌における分子生物・病理学的マーカーによる再発high-risk群とフッ化ピリミジン感受性群の選択に関する研究	木村 理	第一外科	157,500	補 委	財団法人先端医療振興財団
虚血性心疾患における心電図同期SPECT(QGS)検査に関する国内臨床データベース作成のための調査研究-3 慢性腎臓病患者における	渡邊 哲	第一内科	0	補 委	財団法人循環器病研究振興財団
治癒切除結腸癌(StageⅢ)を対象としたフッ化ピリミジン系薬剤を用いた術後補助化学療法の個別化治療に関するコホート研究	木村 理	第一外科	0	補 委	財団法人先端医療振興財団
課題番号(20指-5)「放射線治療を含む標準治療確立のための多施設共同研究」(分担研究課題)「放射線治療を含む集学的治療の研究」	根本 建二	がん臨床センター	500,000	補 委	独立行政法人国立がん研究センター
21指-5「重症未熟児網膜症の病態解明と治療に関する研究」(分担研究課題)山形県における診療体制と問題点	山下 英俊	眼科	1,000,000	補 委	独立行政法人国立成育医療研究センター
課題番号(20委-14):重症心身障害児(者)の病因・病態解明,治療・療育,および施設のあり方に関する研究 分担研究課題:脳形成障害の病態解明	加藤 光広	小児科	1,000,000	補 委	独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
課題番号(21委-6):精神・神経疾患バイオソース・レポソトリーの構築及び病因病態の解明に関する研究 分担研究課題:ARX遺伝子変異に起因する精神遅滞の分子遺伝学的研究	加藤 光広	小児科	2,000,000	補 委	独立行政法人国立精神・神経医療研究センター

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Cardiac Failure 2010 Apr; 16(4): 308-313	Serum midkine as a predictor of cardiac events in patients with chronic heart failure.	Kitahara T	第一内科
Journal of the American Society of Echocardiography 2010 May; 23(5): 545-552	Low wall velocity of left atrial appendage measured by trans-thoracic echocardiography predicts thrombus formation caused by atrial appendage dysfunction.	Tamura H	第一内科
Internal Medicine 2010 August; 49(15):1489-1499	Relationship between habit of cigarette smoking and airflow limitation in healthy Japanese individuals: The Takahata study.	Osaka D	第一内科
Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 2010 Sep; 17(9): 989-998	Trends in coronary risk factors among patients with acute myocardial infarction over the last decade: the Yamagata AMI registry.	Nishiyama S	第一内科
Annals of Nuclear Medicine 2010 Nov; 24(9):679-686	Iodine-123-metaiodobenzylguanidine imaging can predict future cardiac events in heart failure patients with preserved ejection fraction.	Katoh S	第一内科
Journal of Cardiac Failure 2010 Nov; 16(11): 873-879	Serum YKL-40 predicts adverse clinical outcomes in patients with chronic heart failure.	Bilim O	第一内科
Journal of Human Genetics 2010 Dec; 55(12): 791-795	The novel and independent association between single-point SNP of NPHP4 gene and renal function in non-diabetic Japanese population: the Takahata study.	Konta T	第一内科
International Journal of Cardiology 2010 Nov 19; 145(2): 318	High serum level of neopterin is a risk factor of patients with heart failure.	Sasaki T	第一内科
Respirology 2011 Jan; 16: 124-130	Immunohistochemical staining for transcription factor MafB in alveolar macrophages is correlated with spirometric measures of airflow limitation in smokers.	Sato M	第一内科
Internal Medicine 2011 Jan; 50: 87-93	FEV6 and FEV1/FEV6 in Japanese participants of the community-based annual health check: the Takahata study.	Kishi H	第一内科

小計:10

J Viral Hepatitis 2010; 17: 245-253	Clearance of hepatitis C in chimpanzees is associated with intrahepatic T-cell perforin expression during late acute phase.	Watanabe H	第二内科
Eur J Neurol 2010;17:383-390	Cystatin C as an index of cerebral small vessel disease: results of a cross-sectional study in community-based Japanese elderly.	Wada M	第三内科
Endocr J 2010;57(4):293-301	Association of the Common Fat Mass and Obesity Associated(FTO)Gene Polymorphism with Obesity in a Japanese Population.	Karasawa S	第三内科
Yamagata Med J 2010;28(2):39-49	Bloodstream infections in patients with hematological malignancies at the adult hematology ward of Yamagata University Hospital.	Yamamoto M	第三内科
Yamagata Med J 2010;28(2):51-58	Reduced contribution of hypertension to the risk of silent brain infarction in the elderly: a population-based study in Takahata, Japan.	Sagae M	第三内科
Biochem Biophys Res Commun 2010;402:438-442	Segmental copy-number gain within the region of isopentenyl diphosphate isomerase genes in sporadic amyotrophic lateral sclerosis.	Kato T	第三内科
J Biol Chem 2010;285(52):40732-40744	Phosphorylated α -Synuclein at Ser-129 Is Targeted to the Proteasome Pathway in a Ubiquitin-independent Manner.	Machiya Y	第三内科
Intern Med 2010;49:2367	Late-onset familial amyloid polyneuropathy unrelated to known endemics.	Tanji H	第三内科
BRAIN and NERVE 2010;62(3):273-277	マムシ咬傷により複視・眼瞼下垂をきたした1例	猪狩龍佑	第三内科
神経内科 2010;73(1): 74-77	髄膜脳炎と多発ニューロパチーで高齢発症した systemic lupus erythematosus(SLE)の1男性例	伊関千書	第三内科
山形県医師会会報 2010;701:18-22	重症神経難病患者の在宅療養における基幹病院と無床診療所との連携-山形県神経難病医療ネットワークの構築	加藤丈夫	第三内科

小計:11

J. Hum. Genet 2010, 55:550-551	Phenotypic variability in a family with Townes-Brooks syndrome	Sudo Y	小児科
Eur J Clin. Invest 2010, 40:1011-1017	Non-obese early onset diabetes mellitus in mutant cryptochrome1 transgenic mice	Okano S	小児科
J. Hum. Genet 2010, 55:771-773	Compound heterozygous PMP22 deletion mutations causing severe Charcot-Marie-Tooth disease type 1	Abe A	小児科
Epilepsia 2010, 51:2397-2405	STXBP1 mutations in early infantile epileptic encephalopathy with suppression-burst pattern.	Saitsu H	小児科
Clin Neuropharmacol 2010;33(4):212-3	Effectiveness and safety of milnacipran treatment for a patient with delusional disorder, somatic type taking multiple medications for concomitant physical diseases.	Otani K	精神科
Clin Neuropharmacol 2010;33(1):48-9	Successful treatment by paroxetine of delusional disorder, somatic type, accompanied by severe secondary depression.	Hayashi H	精神科
Neuroscience Letters 2010;485:194-7	Association study between a functional polymorphism of FK506-binding protein 51(FKBP5)gene and personality traits in healthy subjects.	Shibuya N	精神科
Behav Brain Res 2010;208(1):209-12	Association study between a functional polymorphism of tyrosine hydroxylase gene promoter and personality traits in healthy subjects.	Sadahiro R	精神科
Int J Psychiatry Clin Pract 2010;14:68-71	Efficacy of milnacipran in the treatment of chronic pain syndromes.	Kamata M	精神科
J Psychopharmacol 2010;24(12):1764-71	Predictive factors for responding to sertraline treatment: views from plasma catecholamine metabolites and serotonin transporter polymorphism.	Umene-Nakano W	精神科
Journal of Dermatology, 2010, March, 37: 276-279	Linear immunoglobulin A bullous dermatosis associated with herpes simplex virus infection and Kawasaki disease.	Hayashi M	皮膚科

小計:11

Int J Clin Oncol. 2010;15:184-19	(18)F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography immediately after chemoradiotherapy predicts prognosis in patients with locoregional postoperative recurrent esophageal cancer.	Nemoto K	がん臨床センター
Clin J Pain. 2010;26(1):38-42	Time course of pain relief in patients treated with radiotherapy for cancer pain:a prospective study.	Nomiya T	がん臨床センター
日本消化器病学会雑誌 2010.Vol.107 No.3 p380-391	消化器神経内分泌腫瘍の外科的治療	木村 理	第一外科
日本胆道学会雑誌. 201.Vol.24 No.4 p585-259	異時性に発生した肝門部胆管癌とVater乳頭部癌を治癒切除し得た1例	平井一郎	第一外科
Digestive Surgery.Vol.27No.2 p149-152	Groove Pancreatitis	Koji Tezuka	第一外科
Pancreas.Vol.39No.5 p604-610	Intraductal papillary-mucinous Neoplasms of the Gastric and Intestinal Types May Have Less Malignant Potentia Than the pancreatobiliary Typel	Naoki Takasu	第一外科
Journal of Hepatobiliary Pancreatic Science.2010Vol.17No.6p 776-781	Pancreatic lithiasis and intraductal papillary-mucinous neoplasm with special reference to the pathogenesis of lithiasis	Wataru Kimura	第一外科
Journal of Hepatobiliary Pancreatic Science.2010.Vol.17 No.6 p813-823	Spleen-preserving distal pancreatectomy with conservation of the splenic artery and vein: techniques and its significance	Wataru Kimura	第一外科
Ann Thorac Surg2010;90:1382-3	Anatomical Lung Segmentectomy Simulated by Computed Tomographic Angiography.	Oizumi H	第二外科
Surgery Today2010;40:1152-54	Tracheal Stenosis Treated by Division of the Brachiocephalic Artery	Minagawa T	第二外科
胸部外科2010;63(3):194-197	左肋骨骨折による外傷性左室損傷	中村 健	第二外科

小計:11

Brain Tumor Pathology.2010;27(1):51-57	Melanotic neuroectodermal tumor of the brain recurring 12years after complete remission:case Report.	Omodaka S	脳神経外科
J Am Soc Echocardiogr.2010;23(5):545-552	Low wall velocity of left atrial appendage measured by trans-thoracic echocardiography predicts thrombus formation caused by atrial appendage dysfunction.	Tamura H	脳神経外科
Stem Cells.2010;28(11):1930-1939	Crosstalk Between the PI3K/mTOR and MEK/ERK Pathways Involved in the Maintenance of Self-Renewal and Tumorigenicity of glioblastoma Stem-Like Cells.	Sunayama J	脳神経外科
脳神経外科. 2010;38(12):1115-1120	術中MRIにて急性硬膜下血腫を診断し得た悪性神経膠腫の1例	櫻田香	脳神経外科
Neurological Surgery. 2010;38(5):455-462	自然破裂した無症候性頭蓋内類皮腫の1例	菊地善彰	脳神経外科
Neurological Surgery. 2010;38(5):441-448	大脳鎌に発生したintracranial extraskelatal mesenchymal chondrosarcoma	齋藤佑規	脳神経外科
CI研究. 2010;1:25-32	術中MRIを用いた脳腫瘍手術	櫻田香	脳神経外科
「神経ジャーナル」脳腫瘍の画像と病理. 2010;19(2):80-85	後頭蓋窩正中部に発生した巨大腫瘍	櫻田香	脳神経外科
脳卒中の外科(別冊). 2010;38:358-362	再発血マメ状動脈瘤に対し瘤内塞栓術を施行した1例	近藤礼	脳神経外科
脳卒中の外科. 2010;38(2):114-118	経過観察中に自然血栓化した未破裂内頸動脈瘤の1例	山田裕樹	脳神経外科
Open Orthop J. 2010;4:141-151	Initial evaluation on subsidence of cemented collarless polished tapered stem applied to the patients with narrow femoral medullar canal.	Dairaku K	整形外科

日本股関節学会誌. 2010 ; 36 : 345-347	当院における大転子側方移行術の成績.	川路博之	整形外科
日人工関節会誌. 2010 ; 40 : 232-233	凍結乾燥アミカシン含有骨セメントの性状に関する検討.	佐々木幹	整形外科
東日本整災誌. 2010 ; 22(3) : 410	色素性絨毛結節性滑膜炎(PVNS)に肩胛板断裂を合併した1例.	澁谷純一郎	整形外科
東日本整災誌. 2010 ; 22(3) : 352	強直性脊椎骨増殖症による後弯変形に対し脊椎短縮術を施行した1例.	澁谷純一郎	整形外科
整スポ会誌. 2010 ; 30 : 124-127	Half-mini-Bunnell法(内山法)によるアキレス腱縫合術後の筋力評価.	鈴木朱美	整形外科
肩関節. 2010 ; 34 : 419-421	肩胛板断裂修復術後のスポーツ復帰.	鈴木朱美	整形外科
日本股関節学会誌. 2010 ; 36 : 217-221	Impaction bone graft 法における骨セメントの浸透現象.	大楽勝之	整形外科
日人工関節会誌. 2010 ; 40 : 82-83	人工関節手術患者の腎機能評価におけるシスタチンCの有用性.	高窪祐弥	整形外科
日本関節病学会誌. 2010 ; 29 : 231-236	生物学的製剤投与中の関節リウマチ患者における手術症例の検討.	高窪祐弥	整形外科
日本股関節学会誌. 2010 ; 36 : 672-675	ミノサイクリン長期投与により骨の黒色変化(Black Bone)を認めた人工股関節手術例の検討.	高窪祐弥	整形外科
肩関節. 2010 ; 34 : 725-729	当院における肩甲骨骨折手術症例の検討.	武居功	整形外科

小計:11

肩関節. 2010 ; 34 : 371-374	上腕骨外科頸骨折に対する保存的治療の前向き治療成績.	桃井義敬	整形外科
日手会誌. 2010 ; 26 : 69-72	手根管症候群に対するトリアムシノロン手根管内注射の効果.	渡邊忠良	整形外科
日手会誌. 2010 ; 26 : 625-627	手根管症候群に対するトリアムシノロン手根管内注射後1年以上経過例の成績.	渡邊忠良	整形外科
日本肘関節学会誌. 2010 ; 17 : 77-79	上腕骨内上顆の前方を走行していた尺骨神経走行異常の1例.	渡邊忠良	整形外科
Endocrinology 2010;151(1):394-405	Molecular mechanism of the inhibition of estradiol-induced endometrial epithelial cell proliferation by clomiphene citrate.	Amita M	産科婦人科
Menopause 2010;17(3):615-621	Effect of dienogest on estrogen-induced nitric oxide production in human umbilical vein endothelial cells and endothelium-dependent vasodilatation in postmenopausal women.	Henmi N	産科婦人科
Gynecol Obstet Invest 2010;70(3):166-172	Usefulness of bezafibrate for ovulation induction in clomiphene citrate-resistant polycystic ovary syndrome patients with dyslipidemia: a prospective pilot study of seven cases.	Hara S	産科婦人科
Gynecol Oncol 2010;118(2):151-154	Histopathological prognostic factors predicting para-aortic lymph node metastasis in patients with endometrioid uterine cancer.	Karube Y	産科婦人科
J Pediatr Surg 2010;45(12):E21-E24	Successful management of a large fetal mediastinal teratoma complicated by nydrops fetalis.	Takayasu H	産科婦人科
Jpn J Ophthalmol 2010 ;54:36-42	Peripapillary retinal nerve fiber layer thickness in normal Japanese eyes measured with optical coherence tomography.	Kanno M	眼科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2010;248(6):805-10	Steroid eye drop treatment (difluprednate ophthalmic emulsion) is effective in reducing refractory diabetic macular edema.	Nakano S	眼科

小計: 11

Auris Nasus Larynx 2010;37(5):584-588	Overexpression of glucocorticoid receptor-beta in severe allergic rhinitis.	石田晃弘	耳鼻咽喉科
Laryngoscope 2010;120(11):2193-2196	Treatment of various otolaryngological cystic diseases by OK-432. Its indications and limitations.	太田伸男	耳鼻咽喉科
Hematological Oncology 2010;28(3):1-4	Expression of glucocorticoid receptor spliced variants in lymphoma cell lines	石田晃弘	耳鼻咽喉科
Audiology Japan 2010;53(4):266-273	聴力正常成人におけるASSRの刺激音圧とパワー・潜時・CSMの関係. ASSRを用いた補充現象解析へむけて	窪田俊憲	耳鼻咽喉科
Facial N Res Jpn 2010;30:84-86	小児顔面神経麻痺症例の検討	石井健一	耳鼻咽喉科
Facial N Res Jpn 2010;30:181-183	家族性顔面神経麻痺症例の検討	川口和浩	耳鼻咽喉科
Facial N Res Jpn 2010;30:69-71	高齢者顔面神経麻痺症例の治療戦略	古川孝俊	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科展望 2010;53: (補1):20-21	山形大学における中咽頭癌の治療成績	野田大介	耳鼻咽喉科
頭頸部癌 2010;36(1) 62- 66	喉頭温存下咽頭部分切除術を施行した8例の治療経験	那須隆	耳鼻咽喉科
頭頸部癌 2010;36(4):83- 87	上顎洞扁平上皮癌に対する超選択的動注化学療法 の長期成績と晩期合併症	小池修治	耳鼻咽喉科
日本鼻科学会会誌 2010;49(1):33-39	副鼻腔破壊型真菌症の2症例	太田伸男	耳鼻咽喉科

小計:11

麻酔. 2010; 59: 75-81	手術中に覚醒を必要とする脳神経外科手術(awake craniotomy)の麻酔管理におけるレミフェンタニルの有効性	岡田真行	麻酔科
Malaysian J Oral Maxillofac Surg. 8(Suppl), 2010; 99	Kabuki Syndrome with complete bilateral cleft lip and palate.	Iino M	歯科口腔外科
J Cancer Res Clin Oncol. 2010; 136(11): 1783-1785	t(11;18)(q21;q21) chromosome translocation(A1446-M1150) of MALT lymphoma in buccal mucosa.	Tanaka T	歯科口腔外科
日歯技工誌. 2010; 30(2): 161-166	歯科技工士の作業管理に関する調査	石川恵生	歯科口腔外科
日歯技工誌. 2010; 31(1): 10-16	歯科技工士の作業管理に関する縦断研究—保健指導前後での作業管理の変化について—	石川恵生	歯科口腔外科
Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery. 2010; 22(1): 119-121	多剤アレルギーの既往をもつ患者の抜歯経験	石川恵生	歯科口腔外科
Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery. 2010; 22(2): 207-210	右側顎下部蜂窩織炎に続発した偽痛風の一例	石川恵生	歯科口腔外科
Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery. 2010; 22(2): 219-222	ストロンチウムが疼痛緩和に有効であった舌癌多発性骨転移の一例	櫻井博理	歯科口腔外科
Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery. 2010; 22(2): 211-214	下唇に発生した血管内乳頭状内皮過形成の1例	山ノ内秀之	歯科口腔外科
Annals of Plastic Surgery. 2010; 65(2): 214-218	The Nuss Technique for Jeune Asphyxiating Thoracic Dystrophy Repair in Siblings.	Kikuchi N	形成外科
形成外科. 2010; 53(3): 325-330	尖端合指部に絞扼組織片を認めた先天性絞扼輪症候群の1例	菊地憲明	形成外科

小計: 11

J Electromyogr Kinesiol. 2010 ; 20 : 1178-1185	Strict actions of the human wrist extensors: A study with an electrical neuromuscular stimulation method.	Sagae M	リハビリテーション部
Mod Rheumatol. 2010 ; 20 : 147-153	Mid-term results of joint preserving procedures by a modified Mann method for big toe deformities in rheumatoid patients with undergoing forefoot surgeries.	Takakubo Y	リハビリテーション部
日本股関節学会誌. 2010 ; 36 : 345-347	当院における大転子側方移行術の成績.	川路博之	リハビリテーション部
日人工関節会誌. 2010 ; 40 : 232-233	凍結乾燥アミカシン含有骨セメントの性状に関する検討.	佐々木幹	リハビリテーション部
日本股関節学会誌. 2010 ; 36 : 217-221	Impaction bone graft 法における骨セメントの浸透現象.	大楽勝之	リハビリテーション部
日人工関節会誌. 2010 ; 40 : 82-83	人工関節手術患者の腎機能評価におけるシスタチンCの有用性.	高窪祐弥	リハビリテーション部
日本関節病学会誌. 2010 ; 29 : 231-236	生物学的製剤投与中の関節リウマチ患者における手術症例の検討.	高窪祐弥	リハビリテーション部
日本股関節学会誌. 2010 ; 36 : 672-675	ミノサイクリン長期投与により骨の黒色変化(Black Bone)を認めた人工股関節手術例の検討.	高窪祐弥	リハビリテーション部
J Spine Res. 2010 ; 1 : 2060-2064	胸椎凸側椎弓根スクリューとin situ contouring techniqueによる手術の経験.	武井寛	リハビリテーション部
日本股関節学会誌. 2010 ; 36 : 409-411	大腿骨転子部骨折に対する Gamma 3 の治療成績.	塚本重治	リハビリテーション部
Annals of Diagnostic Pathology 2010 ; 14 : 204-208	Oncocytic adrenocortical carcinoma : a case report and review of the literature	Hiroya Ohtake	病理部

小計: 11

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 久保田 功
管理担当者氏名	薬剤部長 白石 正, 看護部長 大谷 和子, 総務課長 成田 博昭, 医事課長 田中 清

	保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌	総務課	ファイルにて年度毎に分類、保管している。	
各科診療日誌 病棟日誌 処方せん	看護部	ファイルにて年度毎に分類、保管している。	
手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書	薬剤部	紙面にて入院、外来別、月毎に分類、保管している。	
	医療情報部 (診療記録室)	カルテ等病歴資料は、外来入院別に1患者1ファイル方式とし、エックス線写真は1患者1資料袋方式及び電子カルテ上で、共にコンピュータによる集中管理を行っている。 手術記録は該当患者のカルテに添付して保管している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 薬剤部	
	第規一則	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課
	項第一	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
	第一条	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
の十	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	
掲一第	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医事課	
一第	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
体項	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医事課	
制各	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	
の号			
確及			
保			
び			
の第			
状九			
況条			
の二			
十三			

		保管場所	分類方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一	院内感染のための指針の策定状況	医事課	
	第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	各担当でファイルにて年度毎に分類、保管している。
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター			

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 久保田 功
閲覧担当者氏名	総務課長 成田 博昭
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 第二会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	74.9%	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		7,986人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		6,802人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,365人
	D: 初診の患者の数		14,745人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 本院における医療の安全管理に関する基本的な考え方(2) 本院における医療の安全管理のための組織及び体制に関する基本的事項(3) 本院において医療の安全管理のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針(4) 本院における医療事故の報告等、医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針(5) 本院における医療事故等発生時の対応に関する基本方針(6) 本院の医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針(7) 本院の患者からの相談への対応に関する基本方針(8) その他、本院の医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 24回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 医療事故等の院内報告体制に関すること(2) 医療事故の原因分析、改善策の立案、実施及び従事者への周知に関すること(3) 医療事故防止に関する改善策の検証及び見直しに関すること(4) 医療安全管理に関する啓発及び普及並びに研修に関すること(5) その他医療安全管理に関する必要な事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 9回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで、個々の従業者の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識の向上等を図る内容(2) 病院での具体的な事例(3) 病院全体に共通する安全管理に関する内容	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) あらかじめ定められた手順、事故収集の範囲等に関する規定に従い事例を収集、分析する。これにより、当病院における問題点を把握して、組織としての改善策の企画立案及びその実施状況を評価し、これらの情報を共有する。(2) 重大な事故の発生時には、速やかに管理者へ報告する。また、改善策については、背景要因及び根本原因を分析し検討された効果的な再発防止策を含むものを立案する。	

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (14) 名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療事故等防止対策委員会の資料及び議事録の作成及び保存, その他庶務に関すること (2) 事故等に関する診療録や看護記録への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに, 必要な指導を行うこと (3) 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに, 必要な指導を行うこと (4) 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに, 必要な指導を行うこと (5) 医療安全に係る連絡調整に関すること (6) その他医療安全対策の推進に関すること 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 本院における院内感染対策に関する基本的な考え方</p> <p>(2) 本院における院内感染対策のための委員会及びその他の組織に関する基本的事項</p> <p>(3) 本院における院内感染対策のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針</p> <p>(4) 本院における感染症の発症状況の報告に関する基本方針</p> <p>(5) 本院における院内感染発生時の対応に関する基本方針</p> <p>(6) 本院の患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</p> <p>(7) その他、本院の院内感染対策推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、管理者に報告する。</p> <p>(2) 院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従業者への周知徹底を図る。</p> <p>(3) 感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで個々の従業者の院内感染に対する意識を高め、業務を遂行する上での技能やチームの一員としての意識向上等を図る内容。</p> <p>(2) 病院の実情に即した内容。</p> <p>(3) 病院全体に共通する院内感染に関する内容。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 毎月1回院内の感染状況のサーベイランスを実施し、感染対策委員会・感染制御部会議で報告。感染症の発生動向を共有し、院内感染の予防及びまん延の防止を図る。また、ICTラウンド時等の重点指導項目として活用する。 (MRSA, 多剤耐性緑膿菌等主要検出菌10数種を週報として把握)</p> <p>(2) 院内感染対策の指針に則した院内感染対策マニュアル「院内感染対策の手引き」を整備し、各部署に配布、ならびに院内ネットワークにより電子媒体で提供している。また、各部門の感染対策担当者が毎月感染制御部に周知状況を報告、ICTラウンド時にも周知状況・理解度等を確認することにより、その周知状況の把握・検証を図っている。</p>	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3回
・ 研修の主な内容： (1) 医薬品の有効性・安全性に関する情報、使用方法に関する事項 (2) 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項 (3) 医薬品による副作用等が発生した場合の対応に関する事項	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： (1) 本院で用いる医薬品の採用・購入に関する事項 (2) 本院における医薬品の管理に関する事項 (3) 本院の患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 (4) 本院の患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 (5) 本院における医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 (6) 本院と他施設との連携に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 厚生労働省からの副作用情報 (2) 採用医薬品の一増一減徹底 (3) 危険薬のリスト作成、病棟への配布 (4) 最大投与量のチェックシステム構築	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 30 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 医療機器の有効性・安全性に関する事項</p> <p>(2) 医療機器の使用方法に関する事項</p> <p>(3) 医療機器の保守点検に関する事項</p> <p>(4) 医療機器の不具合等が発生した場合の対応に関する事項</p> <p>(5) 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (☑・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>特に保守点検が必要と考えられる医療機器に対する保守点検の状況は以下のとおりである。</p> <p>①人工心肺装置及び補助循環装置については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。</p> <p>②人工呼吸器については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。</p> <p>③血液浄化装置については、始業時、使用中、終了時の点検及び定期点検(年1回)を実施している。</p> <p>④除細動装置については、定期点検(6ヶ月に1回)を実施している。</p> <p>⑤閉鎖式保育器については、定期点検(年1回)を実施している。</p> <p>⑥診療用高エネルギー放射線発生装置については、始業、終業点検及び定期点検(年4回)を実施している。</p> <p>⑦診療用放射線照射装置については、始業、終業点検及び定期点検(年1回)を実施している。</p> <p>⑧シリンジポンプ、輸液ポンプについては定期点検(年1回)を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 医療機器添付文書等の管理</p> <p>(2) 医療機器の不具合や健康被害等に関する情報の病院長への報告</p>	